

【演習】

行動の背景と捉え方

－行動が起きている理由を考える－

田口 正子

(独法) 国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

この時間の目的

対象者が表す行動について、支援者がその行動の背景にある理由が分からないため、自分なりの解釈をし、その結果として誤った対応を行ってしまうことがあります。
この時間は、行動の背景について考え、行動が起きている理由を整理する考え方を学びます。

【ポイント】

- ① 支援方法、支援の手順を考える時間ではありません。
- ② 「行動の背景」を整理する2つの視点があることを理解しましょう。
- ③ 行動の背景には、様々な理由（ex.障害特性）があることを理解しましょう。

この時間の流れ



演習①：事例対象者の障害特性を個人・グループで検討し、行動の背景を考えるポイントを学びます。

演習②：事例対象者の障害特性と影響を及ぼしている周囲の環境について個人・グループで検討し、行動の背景を考えるポイントを学びます。

足早に出て行く Aさん

- 私が務める職場には、Aさんという40代の事務職員がいます。いつも出社時と退社時に事務所へ行くのですが、決まって笑顔で「お疲れ様です」と挨拶を返してくれます。
- 先日は事務所で「実家からスイカが届いたから、お裾分け」と、冷蔵庫からタッパーを取り出し、スイカを分けてくれました。「旦那もスイカ好きでね。あっ、息子も好きだから家族全員か」と嬉しそうに話していました。
- そんなある日の早朝のことです。いつもなら事務所で挨拶をすると、振り返って「おはようございます。お疲れ様です」と返事をしてくれるAさんですが、今日は黙って机の方を向いていました。
- 少し気になったので、Aさんの近くへ行き「おはようございます。何かありましたか？」と話しかけると、「何も無いです。おはようございます」と言うと、足早に事務所から出て行ってしまいました。
- Aさんの机には沢山の書類が積まれていました。また普段は車通勤なのに、今日はその車がなかったことも気になりました。あと、Aさんに提出しないといけない書類を出していないことも、関係しているのかな？

モデル事例 | 行動の背景を考える

Aさんが足早に部屋を出て行った理由は、様々なこと（要因）が推測されます。

(例) 足早に出て行った背景

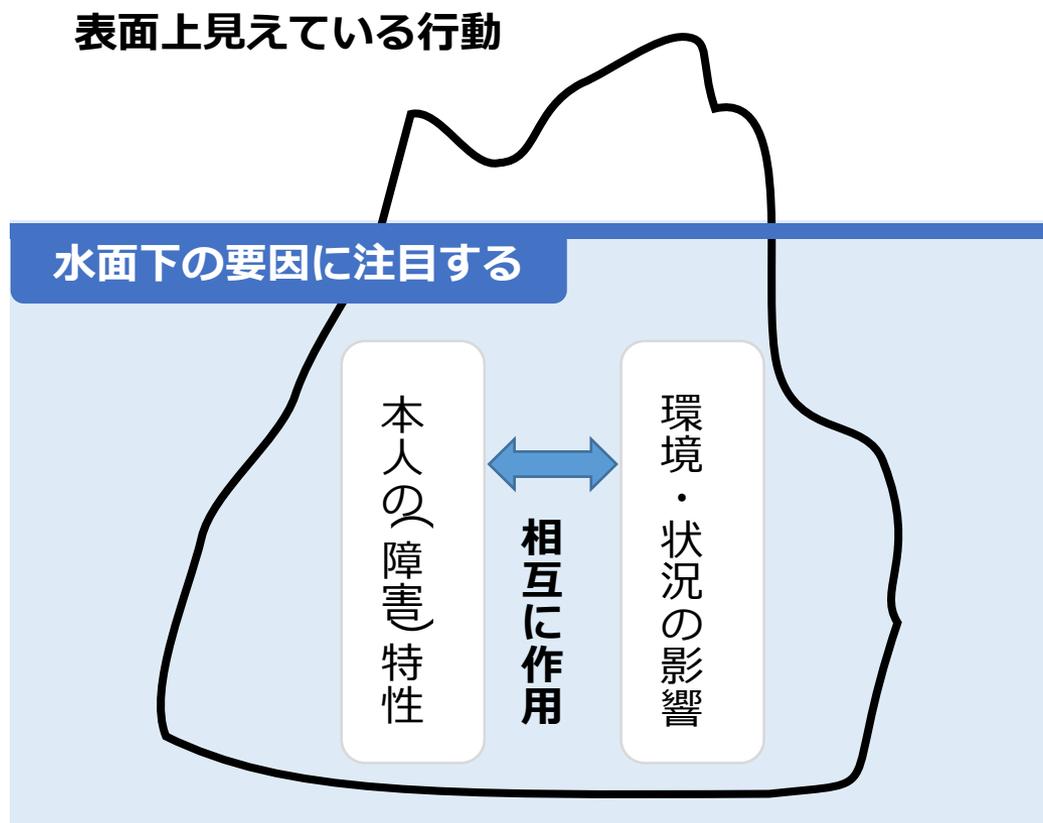
- ・ 仕事が多く、イライラしていた
- ・ 事故に遭い、落ち込んでいた
- ・ 書類が提出されないことに怒っていた
- ・ 風邪をひいて、気分がすぐれなかった
- ・ 二日酔いで、気持ちが悪かった
- ・ 低血圧の為、朝方は体調がすぐれない

・ ・ ・ etc.

モデル事例 | 冰山モデルで考える

冰山モデルとは、障害がある人の課題となっている行動を氷山の一角として捉え、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の要因に着目して支援の方法を考えることを意味します。

本研修では、支援方法までは考えず、行動の背景を捉えるツールとして使用します。



モデル事例 | 冰山モデルで考える

足早に部屋を出て行く

水面下の要因に注目する

本人の特性

低血圧の為、朝方は体調がすぐれない（特に起床後1～2時間程度）。

- ・ふらつき
- ・めまい
- ・倦怠感

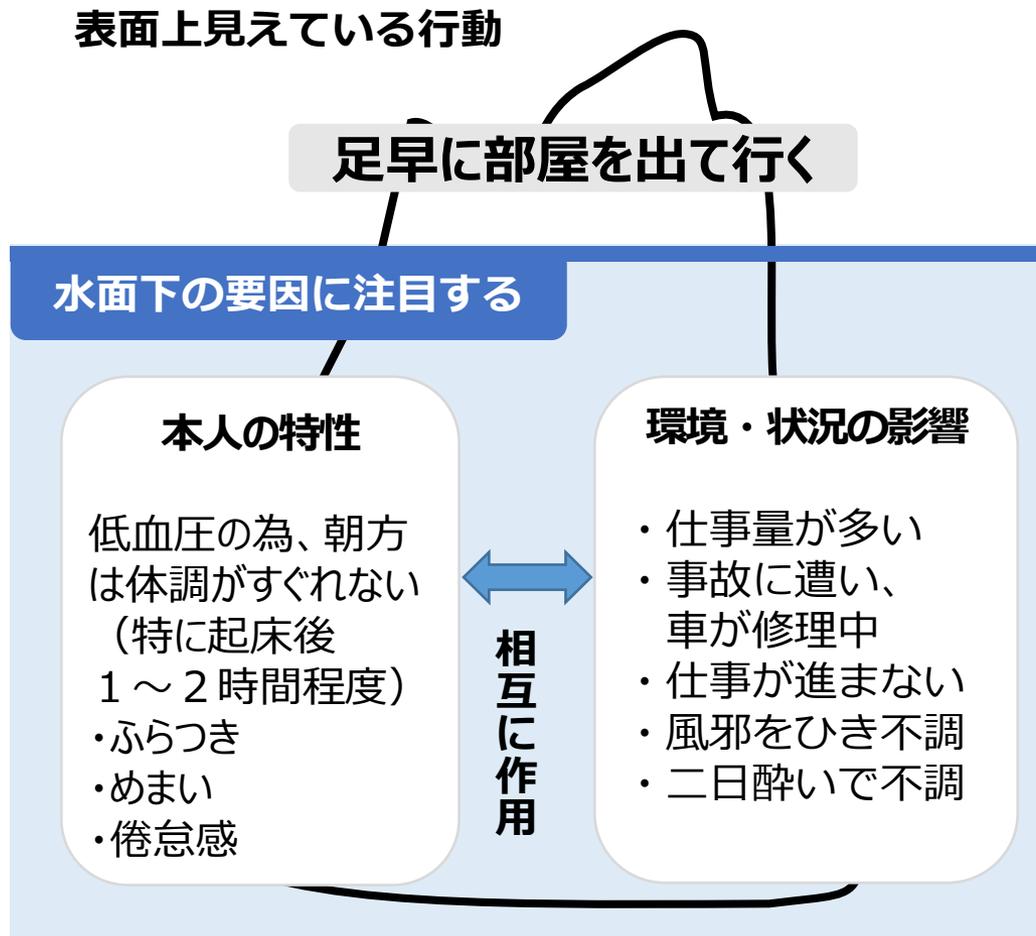
環境・状況の影響

- ・仕事量が多い
- ・事故に遭い、車を修理に出した
- ・必要な書類が提出されず、仕事が進まない
- ・風邪をひき不調だった
- ・二日酔いで不調だった

モデル事例 | 冰山モデルで考える

本人の特性を理解する ヒント

- 対象者の病歴や診断名を把握する
- 疾病や障害の特性を理解する（知る）



本人の特性 | ex.障害特性

■ 障害特性：障害により生じている特性

自閉症：対人関係形成の困難さ

言語発達の遅れや異なった意味理解

手順や方法に独特のこだわりなどがある、等

【※ヒントシートを参照】

知的障害：記憶することや文字、形を見分けることが困難

微細な作業が困難

興奮しやすい、極端な自信喪失など、等

想定される 障害特性

リフレーミング (強みの表現に変換) してみると

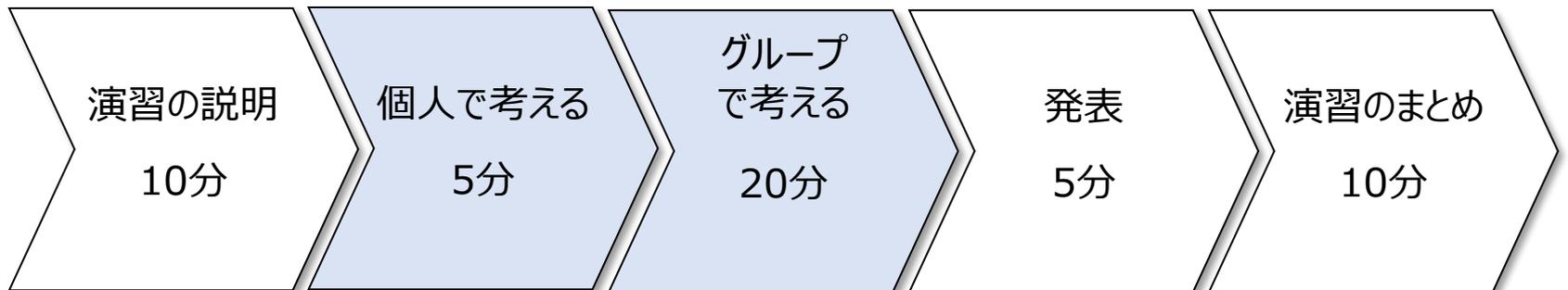
社会性	意思疎通	遅れと偏り	発達の特徴	その他
-----	------	-------	-------	-----

①	ことばを聞いて理解することが苦手	●			▶	目で見た情報は理解しやすい
②	表情や身振りを、誤って理解してしまう	●			▶	明瞭に（はっきりと）区別された指示を好む
③	人や場面によって態度を変えられない	●	●		▶	ルールをきっちりと守ろうとする。物怖じしない
④	他の人の興味あることに関心が薄い	●			▶	状況に左右されず、自分の好きなことに取り組むことができる
⑤	全体をとらえて関係性をつかむことが苦手	●			▶	細部に、強く意識を向けることができる
⑥	別のやり方を探したり臨機応変な対応が苦手	●			▶	状況に左右されず、ねばり強く取り組むことができる
⑦	集団で一斉に行動することが苦手	●			▶	マイペースに課題を完了することができる
⑧	「いつ終わる」かを理解するのが苦手	●	●		▶	決められたことを、やり続けようとする
⑨	抽象的、あいまいなことの理解が苦手	●	●		▶	具体的で、はっきりとしたことを好む
⑩	経験していないことを想像することが苦手	●	●		▶	経験したことは、しっかりと覚える
⑪	特定の物事に強く固執	●	●	●	▶	興味があること（趣味・仕事）に、積極的に取り組める
⑫	記憶することが苦手		●		▶	繰り返し体験することで記憶する
⑬	発達（認知能力）がアンバランス		●		▶	興味・関心、好きなことは抜群にできる
⑭	特定の行動を何度もくりかえしてしまう		●	●	▶	決まったパターンを几帳面に行うことができる
⑮	期待されていることに注意が向かない			●	▶	興味・関心があるものに、強く注意・集中を向けることができる
	・落ち着きがなく、その場にとどまっていられない			●		
	・結果をかえりみず突然反応してしまう			●		
⑯	特定の感覚が過敏、または鈍い			●	▶	些細な違いや変化に気がつくことができる、または非常に我慢強い

演習① | 障害特性を考える

- 「司会」は③、「記録」は⑤、「発表者」は④が行います。
- エピソード「あれから、何かがおかしい」を読み、行動の背景にある障害特性を考えてみましょう。

【演習の流れ】



演習① | あれから、何かがおかしい

- 3ヶ月前に脳卒中で入院したBさんは、2週間前に退院し、現在は在宅で生活をしています。左半身には後遺症の麻痺がありますが、右手で車いすを操作し、大きな段差が無ければ自力で移動もできます。身の回りのこともほぼ自分でできるので、家族は「良くなっている」とホッとしていました。
- でも、少し気になることもあるようです。食事の時、いつもご飯を残したり、お皿の（Bさんから見て）左側だけ残っていたりするんだそうです。他にも、目の前にお茶があるのに「お茶、ちょうだい」と言ったり、廊下の壁にぶつかることもあるそうです。昨日は、廊下の左に置いてあった買い物袋にぶつかり、左手に打ち身と擦り傷ができてしまったそうです。
- それから、ひげ剃りにについても。いつも左側が剃れてないので、家族が「左側剃れてないよ」と言うと、自分で触って「あっ、本当だ」と言い、もう一度剃りにいくことが続いているようです。Bさん本人は全く自覚がなく、家族に言われて気がついているようです。
- 退院から2週間、「脳卒中のあとから、何かがおかしい」と家族は感じているようです。

演習① | 冰山モデルで考える

- ・ ご飯を残す（左側を残す）
- ・ よく左側の物（人）や壁にぶつかる
- ・ 左の髭が剃れていない

本人の障害特性

環境・状況の影響（環境要因）

- ・ 食事は本人の正面に設置
- ・ 湯飲みは左手側に置いてあることが多い
- ・ 鏡を見て電気カミソリで髭を剃る
- ・ 廊下に、物が置いてある。
- ・ 基本的には、食事や整容、移動は一人で行う。

演習① | 障害特性を考える

5分 【各自】

1. エピソード「あれから、何かがおかしい」をもう一度読み、Bさんの行動の背景にある障害特性について、ワークシート（WS-1）に書いてみましょう。

10分 【グループ】

2.
 - 1) 書いた障害特性を、各自グループ内で発表
 - 2) グループ内で障害特性をまとめる

5分 【発表】

3. 3つのグループに発表してもらいます（**3~4個**）

演習① | 障害特性を考える (例)

- ・ ご飯を残す (左側を残す)
- ・ よく左側の物 (人) や壁にぶつかる
- ・ 左の髭が剃れていない

本人の障害特性

- (例)
- ・ 左側に意識が向かない
 - ・ 意識が向いていないことに気がついていない

環境・状況の影響 (環境要因)

- ・ 食事は本人の正面に設置
- ・ 湯飲みは左手側に置いてあることが多い
- ・ 鏡を見て電気カミソリで髭を剃る
- ・ 廊下に、物が置いてある。
- ・ 基本的には、食事や整容、移動は一人で行う。

演習① | 補足：支援方法に繋がると

半側空間無視： 視力に問題はないのに、
目にして空間の半分に気がつきにくくなる障害

対応の例（左半側空間無視の場合）

- ・ 食事を気がつきやすい体の右側に置く
- ・ 無視のない右側から声をかける
- ・ 左側に目印をつけて、注意を促す
- ・ 外出の歩行時などは、左側にヘルパー（家族等）が付き添う

右側

左側



演習① | まとめ

行動の背景を考える視点

- 行動が起きている背景には、何らかの理由がある
- 対象者の表情と、感情は必ずしも一致しているわけではない
⇒笑っているから「嬉しい」。無表情だから「何も感じていない」
とは限らない
表面上見えている情報が全てでは無いことを理解しましょう

冰山モデル

- 特に行動障害がある人の行動の背景を捉える考え方
- 表面上見えている行動の背景には、環境要因と障害特性が相互に関連している
⇒障害の種類により、障害特性も異なる

休憩 | お願い

- これから〇分間、休憩をとります
- 〇〇:〇〇までに、各グループ①の人が**模造紙と付箋**、**インク写り予防用のロール紙、マジックペン**を、会場後方の机まで取りに来て下さい
- 演習 2 で使用する備品です。
休憩が終わるまでに、必ずとりに来て下さい。

演習② | 障害特性と環境要因を考える

- 「司会」は⑥、「記録」は①、「発表者」は②が行います。
- エピソード「ミサキさんの事例」を読み、行動の背景にある障害特性と環境要因を考えてみましょう。

【演習の流れ】



演習② | ミサキさんの事例

- ミサキさんは特別支援学校中学部の卒業を控えた15歳の頃、急に学校に通うことができなくなりました。家では奇声を上げ続けたり、変形するほど自分の顔を叩いたり……。自傷を放っておくわけにはいかず、家族は交代でミサキさんを抱きかかえて過ごす毎日が続きました。睡眠のリズムも崩れ、昼夜逆転した生活に家族は疲れ果てていました。
- 3歳の時に中度の知的障害を伴う自閉症との診断を受けたミサキさんは、小さい頃から強い感覚過敏がありました。人の大きな声や歓声が苦手で、他の子どもが遊んでいる公園に連れて行く度に泣き叫んでいました。こだわりの強さも相当なもので、小さく点滅するネオンサインを見つけると動かなくなってしまうミサキさんを家に連れ帰るのに、いつも大変苦労していたそうです。
- ➡ テキストp.186の事例「不登校になったミサキさん」を読み、ミサキさんの障害特性と環境要因について考えてみましょう。



演習② | 障害特性と環境要因を考える

10分 【各自】

1. エピソード「ミサキさんの事例」をもう一度読み、ミサキさんの障害特性と環境要因を、ワークシート（WS-2）に書いてみましょう。

30分 【グループ】

2.
 - 1) 個人が書いた障害特性と環境要因を、グループ内で発表
 - 2) グループ内で障害特性と環境要因をまとめる

10分 【発表】

3. 3つのグループに発表してもらいます。

演習② | 個人で考える

学校に行くことができなくなった（不登校）。
かんしゃくを起こす。

本人の障害特性

環境・状況の影響（環境要因）

【支援方法】

- ・スケジュールボード（写真）を使い先の見通しを持てるようにする。
- ・外出の流れをスモールステップ（少しずつ段階的に）で、開始し取り組む。
- ・外出先に学校も入れ、「学校に行ける」ことを伝える。

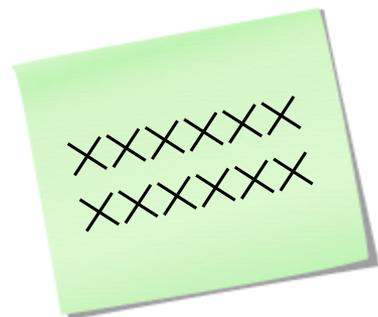
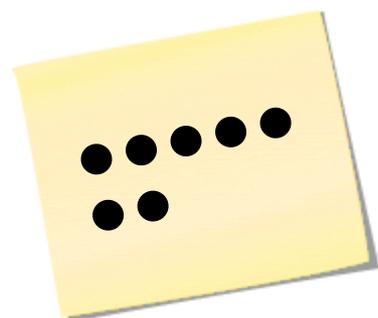
演習② | グループで考える

30分 【グループ】

1. WS-2を模造紙に同じように書いて下さい **(5分)**
2. 付箋に「障害特性」と「環境要因」に書いた内容を、書き写します。
その際、付箋1枚には内容1つずつ記入してください **(5分)**
3. 障害特性と環境要因を各自グループ内で発表し、書いた付箋を該当する箇所に貼りつけていきます **(10分)**
4. グループ内で障害特性と環境要因をまとめます **(10分)**

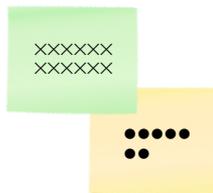
※時間が余ったグループは、冰山を綺麗にペイントしてください

演習② | グループ内発表



学校に行くことができなくなった（不登校）。
かんしゃくを起こす。

本人の障害特性



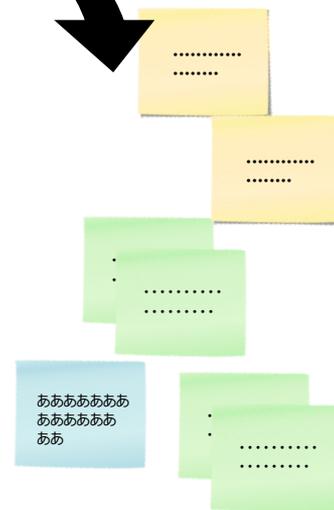
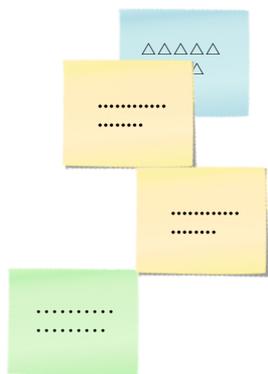
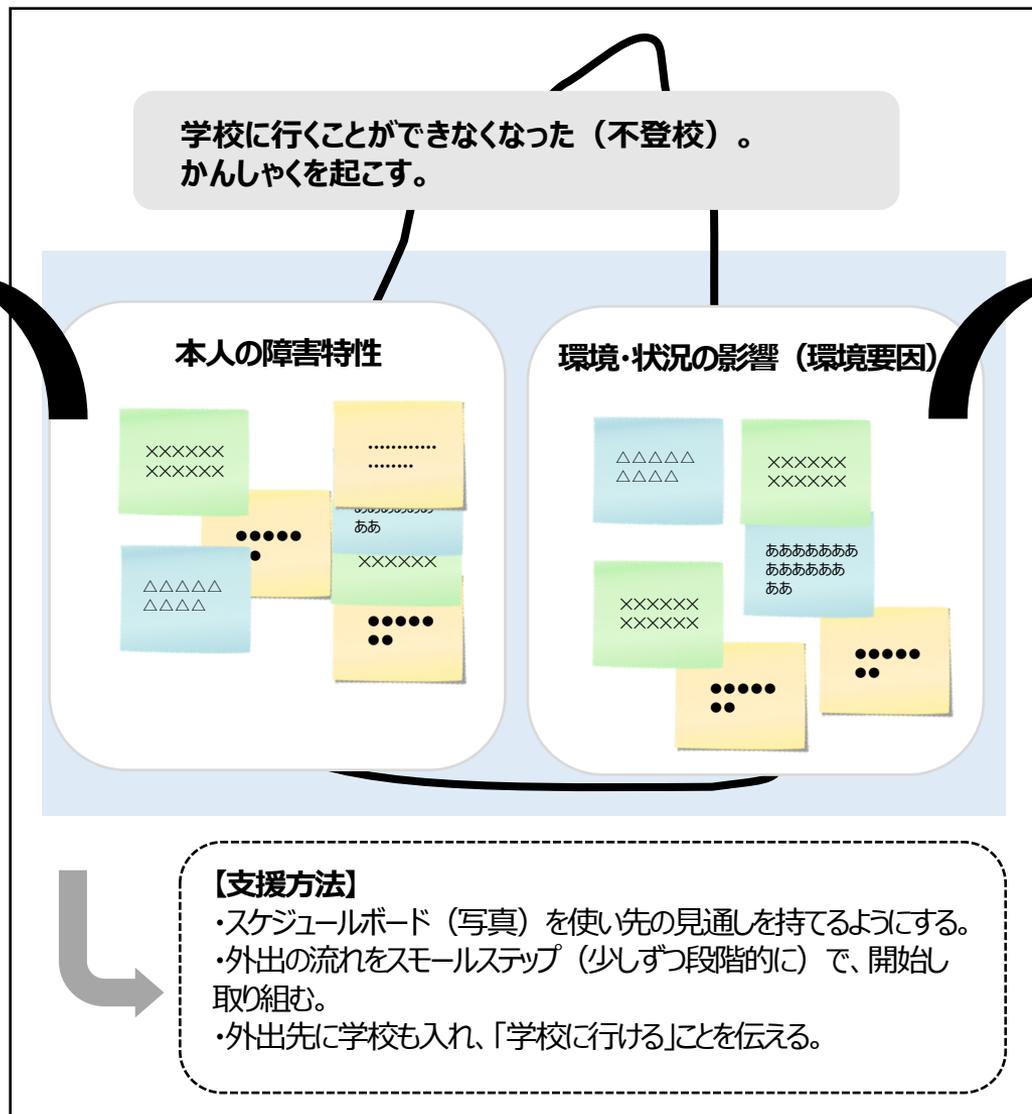
環境・状況の影響（環境要因）



【支援方法】

- ・スケジュールボード（写真）を使い先の見通しを持てるようにする。
- ・外出の流れをスモールステップ（少しずつ段階的に）で、開始し取り組む。
- ・外出先に学校も入れ、「学校に行ける」ことを伝える。

演習② | グループでまとめる



演習② | 発表

10分 【発表：3グループ】

1. 司会者と記録者はグループで作成した模造紙を持ち、前に出ます
2. 発表者も前に出て、説明をしてください
 - 1) グループでまとめた障害特性と環境要因
 - 2) なぜ、それを選んだのか（根拠）

演習② | 例示 (まとめ)

学校に行くことができなくなった (不登校)。
かんしゃくを起こす。

本人の障害特性

- ・特定の感覚が過敏、または鈍い
(人の大きな声・歓声)
- ・特定の物事に強く固執
- ・抽象的、あいまいなことの理解が苦手
- ・経験していないことを想像することが苦手
- ・ことばを聞いて理解することが苦手

環境・状況の影響 (環境要因)

- ・保護者、教師からの関わりは言語
- ・定期的に学校行事がある
- ・自傷・暴れると、つきっきりでの対応
(なだめる)
- ・「卒業したら学校にはもう通わない」
と母親から説明を受ける

【支援方法】

- ・スケジュールボード (写真) を使い先の見通しを持てるようにする。
- ・外出の流れをスモールステップ (少しずつ段階的に) で、開始し取り組む。
- ・外出先に学校も入れ、「学校に行ける」ことを伝える。

まとめ | 行動の背景と捉え方

- 行動には何らかの理由がある
- 「冰山モデル」を使った行動の背景を捉える考え方
- 行動の背景には「障害特性」と「環境要因」があり、双方が関連し、表面上の行動として表れる
- 障害の種類により「障害特性」も様々
- 「障害特性」と「環境要因」を整理し、課題となっている要因を明らかにする事が根拠に基づいた適切な支援の第1歩

